

エーアイ 音声合成技術

誰の声でもそっくりに再現

飛躍カンパニー

「政府は年内の取りまとめを目指す『社会保障と税の一体改革』をめぐる議論で…」

パソコンからお堅い政治ニュースを読み上げる声が流れる。非常に滑らかな口調だが、よく聞くと何かおかしい。その声がテレビでおなじみの俳優、森本レオさんの声だとすぐにわかったからだ。

なぜ森本さんがニュースを？もちろん森本さん本人が読み上げているわけではなく、パソコンで打ち込んだニュースのテキストを音声に変換したもの。ITベンチャー、エーアイ（東京都文京区）の先進的な音声合成技術「AITalk」（AIトーク）の成せる技だ。

音声への変換技術は特に珍しいものではないが、AIトークの優れた点は、平板で「機械的」なところを感じさせない、自然で流れるような話しぶりを実現したこと。さらに、3～5時間程度録音するだけで、誰の声でもそっくりに再現できる点が、従来技術を圧倒している。

普及を目指す市場について、同社の吉田大介社長は「社会インフラとエンターテインメントの分野だ」と意気込む。

社会インフラとしては、すでに防災行政無線への導入実績を積み上げている。東日本大震災でもクロースアップされたが、これまでは災害時に人が直接話したり、録音した声を流すのが一般的。ただ、「意外とゆっくり同じスピードで聞き取りやすく話すのは難しい」（吉田社長）。AIトークの評判は広が

り、入札仕様書に音声合成技術を盛り込む自治体も増えてきたという。

エンターテインメント分野では、インターネットの広告キャンペーンでの活用が先行。誰もがメールで好きなテキストを打ち込み、森本レオさんの「声」がそれを読み上げてくれるというKDDIのキャンペーンに採用されるなど、人気は上々だ。

独自の技術として開発を始めてから5年。改良を重ね、女性5人、男性2人、男の子1人、女の子1人の合計9人の声を標準装備した。「来年1月にはさらに2人増える」（同）。さまざまなソフトに組み込めるよう



エーアイの吉田大介社長。音声合成技術「AITalk」はスマートフォンの普及で需要拡大が見込めそうだ

技術をライセンス販売しており、現在はゲームソフト会社が採用してゲームの開発を進めているほか、スマートフォン（高性能携帯電話）のアプリへの導入も始まった。

個人向けの簡易版もあり、例えば自分の声で文書を読み上げたいという企業の社長や、どうしても自分の声を残したいとい

う人向けに、150文書を読み上げるだけで、その人の声を合成できるサービスも提供する。

今後の課題は「より小型化しつつ音質を高めることと、個人の声を合成するプロセスのコストダウン」（同）。技術に一層磨きをかけ、近い将来に年商5億円という目標を達成したい考えだ。（池蔵二郎）